

様式 1

東北大学大学院情報科学研究科

(1) シンポジウム開催支援経費実績報告書	
タイトル	第18回 アルゴリズムと計算に関する国際会議 The 18 th International Symposium on Algorithms and Computation (ISAAC '07)
(2) 主催者	実行委員会委員長 西関 隆夫, プログラム委員会委員長 徳山 豪 東北大学大学院情報科学研究科, 東北大学電気通信研究所, 情報処理学会アルゴリズム研究会, 電子情報通信学会コンピュテーション研究会, 電気通信普及財団, 柏森情報科学振興財団, (財) テレコム先端技術研究支援センター, 仙台観光コンベンション協会
期 日	2007年12月17日～12月19日(3日間)
会 場	仙台エクセルホテル東急
出席者数(講師・パネリスト等を除く)	190名
講師・パネリスト等の氏名・勤務先等	招待講演者: Pankaj Aggarwal (Duke 大学教授) Robin Thomas (Georgia 工科大学教授)
(3) 目的	アルゴリズムと計算理論は計算機科学の中心的テーマであり, 公開鍵暗号アルゴリズム, VLSI 設計アルゴリズム, データマイニングなど電気通信の分野のアルゴリズムが盛んに研究されている。ISAAC は今や本分野の世界で最も権威ある国際会議として認知されている。第18回 ISAAC を仙台で開催し, 論文集を発行することにより, アルゴリズムに関する研究成果を公表するとともに, 研究者の交流をはかる。
(4) 内容	ISAAC' 07 はアルゴリズムと計算理論に関する論文を募集し, 厳格な査読により優れた論文を約77編採択し, 3日間に渡り招待講演2件, 一般講演約77件の発表・討論を行った。
(5) 情報科学研究科にとっての意義・貢献度	第18回 ISAAC を仙台で開催し, 論文集を Springer-Verlag 社の Lecture Notes in Computer Science の1冊として発行したことにより, アルゴリズムに関する研究成果を公表するとともに, 研究者の交流をはかった。ISAAC' 07 の開催により, ネットワーク, グラフ, 幾何データなどに関するアルゴリズムばかりではなく, Web での情報検索, 移動通信の周波数帯域割当などに応用されるアルゴリズムの発展が期待できる。情報科学研究科が共催することにより, 研究科の存在を世界にアピールすることができた。

注 (1) 「シンポジウム開催支援経費」「学際的研究プロジェクト支援経費」より, 該当する項目を記載してください。

(2) 当学術企画実施の代表者もしくは責任者及び協力者名を全員記載してください。

(3) 当学術企画を実施した目的を簡潔に記載してください。

(4) 実施された当学術企画の内容を簡潔に記載してください。

(5) 大学院情報科学研究科に対する当学術企画の意義や貢献度を簡潔に記載してください。